

信を通す

1

たて・よこ コミュニケーション



三菱商事株式会社
代表取締役社長

小島 順彦氏
(こじま・よりひこ)

著作権の関係上、表示できません。

私は座右の銘として、「一期一会」を信条とし、人と人との出会いを出来るだけ大切に生きてきた。学生時代、そしてその後社会人として時を重ねる毎に、この思いは益々高まるばかりだ。振り返ってみれば、インテックホールディングスの中尾会長との出会いも、最初は勉強会を通じたもので、その後単なるビジネスの繋がりを超え、人生の貴重な先輩として非常に示唆に富む教えを戴いている。

経営においても、人に対する思いは同じだ。即ち、経営において戦略や組織などは非常に重要な要素ではあるものの、実際に変化の時代の企業活動を支えているのは、ビジネスの最前線の現場で日々業務に当たっている社員一人一人である。こうした社員が、会社の戦略や目的といったものを共有しつつ、お客様と新たなビジネスを構築していくことが何となく必要である。

このために私が社員に常口頭言っているのが、「たて・よこ」「ミニコミュニケーション」の重要性である。具体的には、「たて」の「ミニ」

ン」というのは、年齢・世代を超えた「ミニ」コミュニケーションのことである。幾ら年次が上だからと言っても、例えば携帯電話の使い方一つ取っても、特にIT時代に於いては若者の方が得意な部分は沢山ある。従って、年齢や世代を超えて、お互いが理解を深め合うことが重要だ。その為には、特に年長者が年下の者と会話する場合、同じ目線で相手の話をよく聞くことが基本である。

「よこ」の「ミニ」コミュニケーションとは、まずは会社の中の組織間の壁を越えた「ミニ」コミュニケーションのことである。もう一言言えば会社を越え、国を越えた、グローバルな「ミニ」コミュニケーションのことである。ビジネス環境が激変する現代において、各自が世界的な視野の下、情報ネットワークを構築することが重要である。IT技術の進化により、正にグローバルな「ミニ」コミュニケーションが可能な時代である。私自身、新たな時代に相応しい「一期一会」を、そして「たて・よこ」「ミニ」コミュニケーションをこれからも大切にしていきたい。